

## 脳卒中片麻痺患者における ADL 難易度の調査

中島 崇暁<sup>1)</sup>、鈴木 佳代子<sup>1)</sup>、風晴 俊之<sup>1)</sup>、美原 盤<sup>2)</sup>

1) (公財)脳血管研究所 美原記念病院 リハビリテーション科

2) (公財)脳血管研究所 美原記念病院 神経内科

**[はじめに]**脳卒中片麻痺患者に対するリハビリにおいて ADL が獲得される順序やその難易度に関する報告は少ない。今回、これらについて調査した。

**[対象・方法]**回復期リハビリ病棟へ入棟した脳卒中片麻痺患者 471 名を対象とし、FIM 総点数が 80 点、90 点、100 点、110 点の 4 時点における下位運動項目の自立率(6 点以上)を調査した。

**[結果]**自立率は、80 点の時点で食事が 5 割で、排尿・排便管理を除く項目は未自立であった。90 点の時点では食事が 6 割、100 点の時点ではベッド移乗やトイレ動作、更衣が 5 割、110 点の時点では歩行が 5 割になり、浴槽移乗は 1 割未満であった。

**[考察]**片麻痺患者の ADL の難易度は、座位・立位・歩行に関連する順であり、概ね予測的見解と一致していた。片麻痺患者の食事や移乗、歩行の下位項目を把握することにより FIM スコアの推測が可能で、他職種間での情報共有の指標として用いることができる。